甲陽生花百瓶圖

372

716.2
.Z4

6956

龝鄗

[illegible]

檀特

如雪菴
尺五

蘭

青桐坊
柯雲

女郎花　ききやう

百花園
波山

大菊　小きく

田邊氏女
門雅

秋海棠

虎城菴

橘露

紫菀 しをんとう

榮長軒

佳隆

苅萱

野きく

幽月舎

素卜

みつひき

周禮閣

露凝

桔梗

應醉軒

盛雅

秋海棠

雪齋

有之

八朔梅
かきつはた

雲霄齋
壺蘭

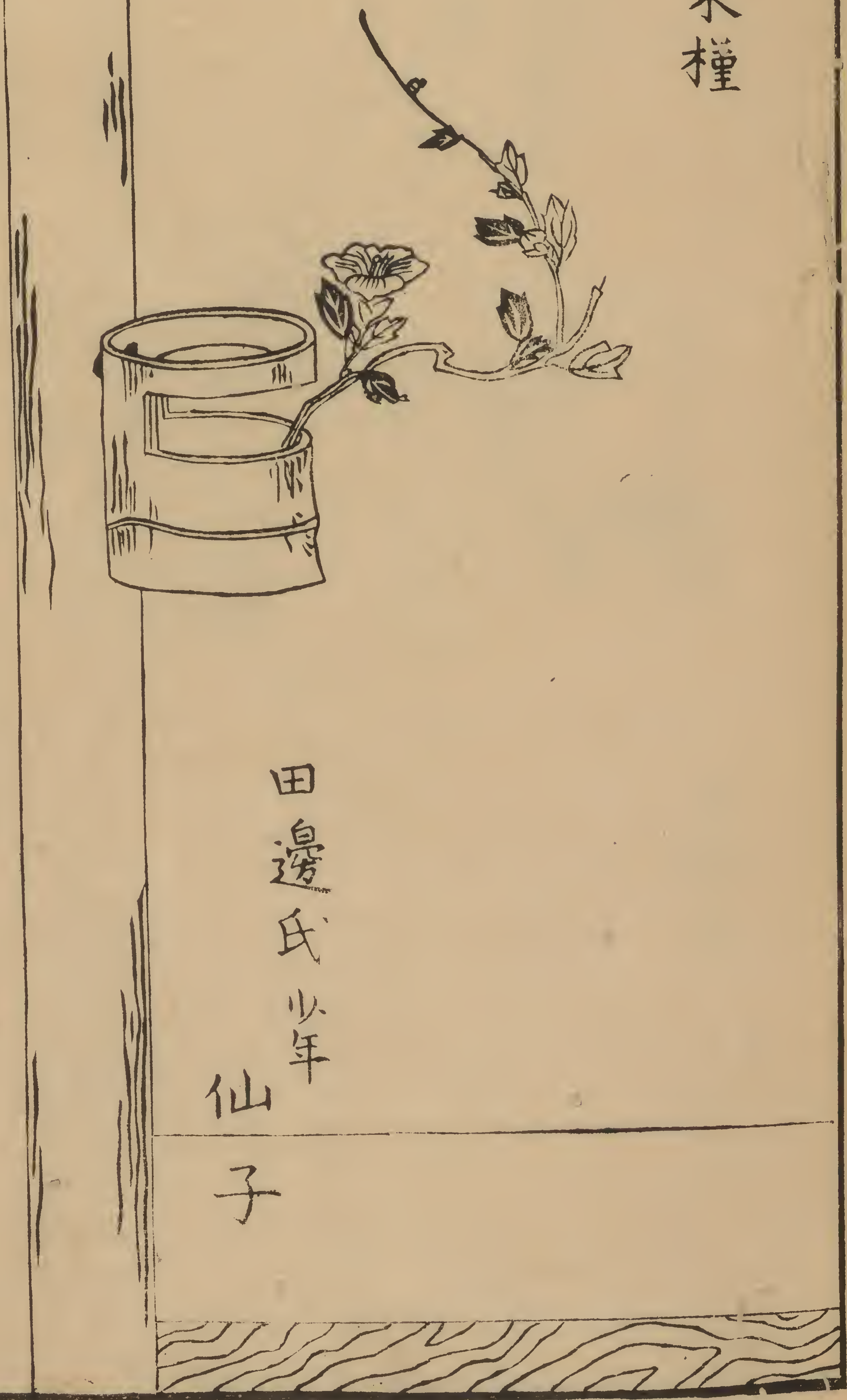
芙蓉

石田氏女
文枝

糸薄
野ぎく

萬舟舎
旭湖

木槿

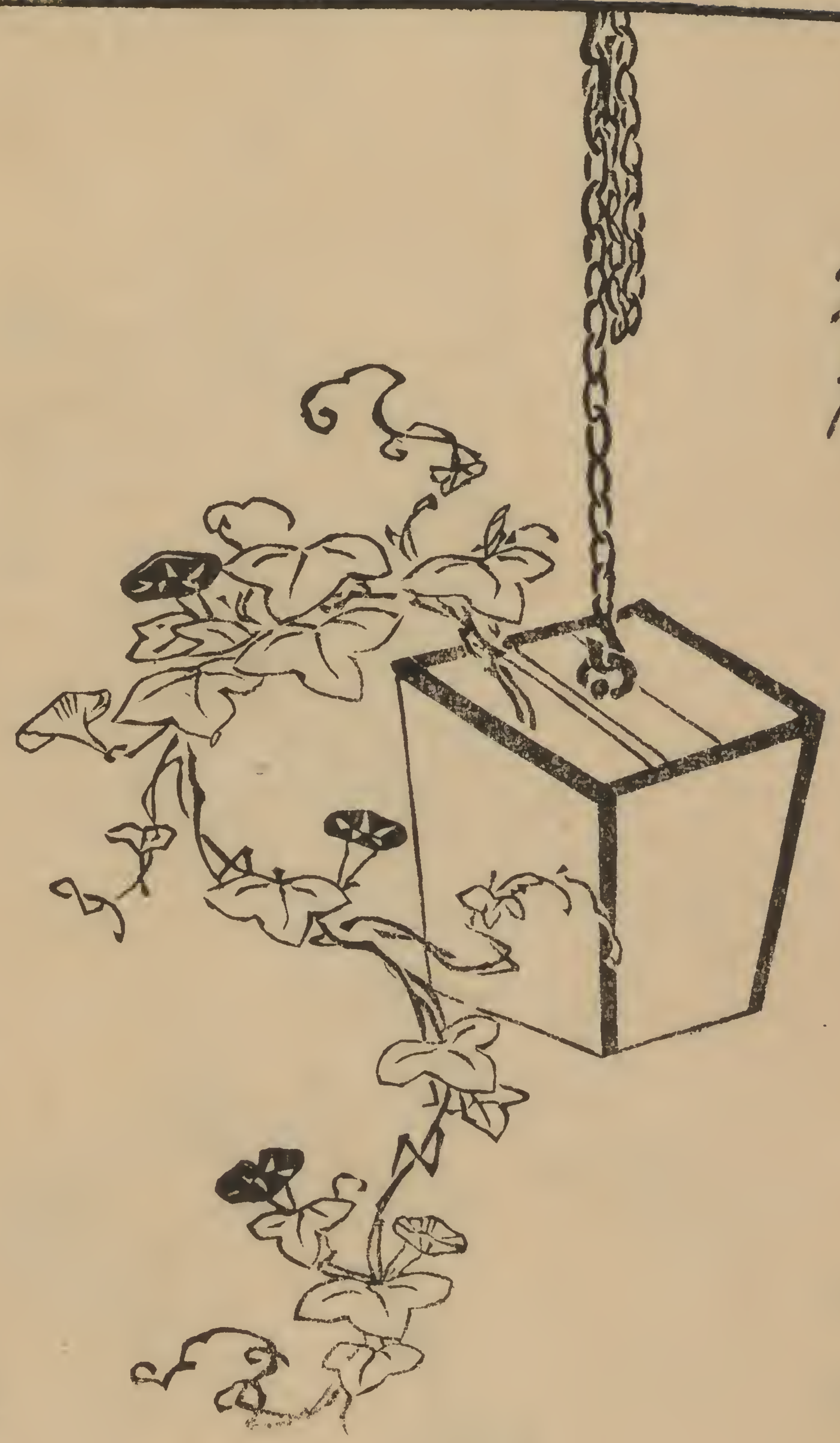


田邊氏少年
仙子

大菊
小きく

春眠亭
起千

朝顔



東風亭
莎場

楓樹軒 已陵

花随舎 和秀

ちられ
きく
秋膽

武井卧龍

ふちなし生
仙翁花

孤景園 藎仙

ごり
うふく

河野祐之

朝鮮
朝顔

河陽舎
二蝶

大菊
小ぎく

浄蓮舎
霞光

鷹の羽薄
烏瓜

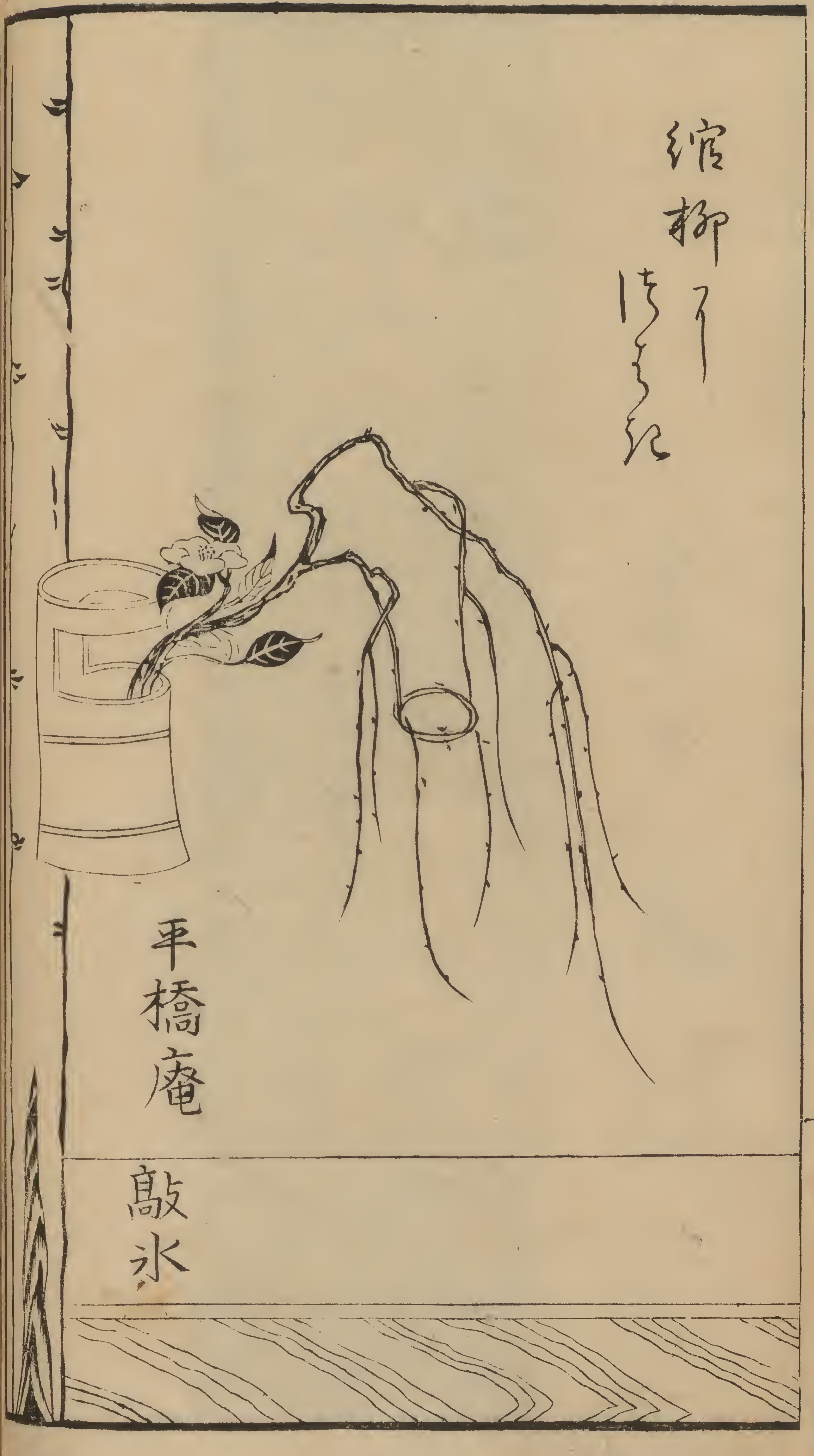
瑞雲亭
賀山

大菊

天柱舎
太路

冬部

素卜画


縮柳
平橋庵
敲氷

梅水仙
平林居
孤石

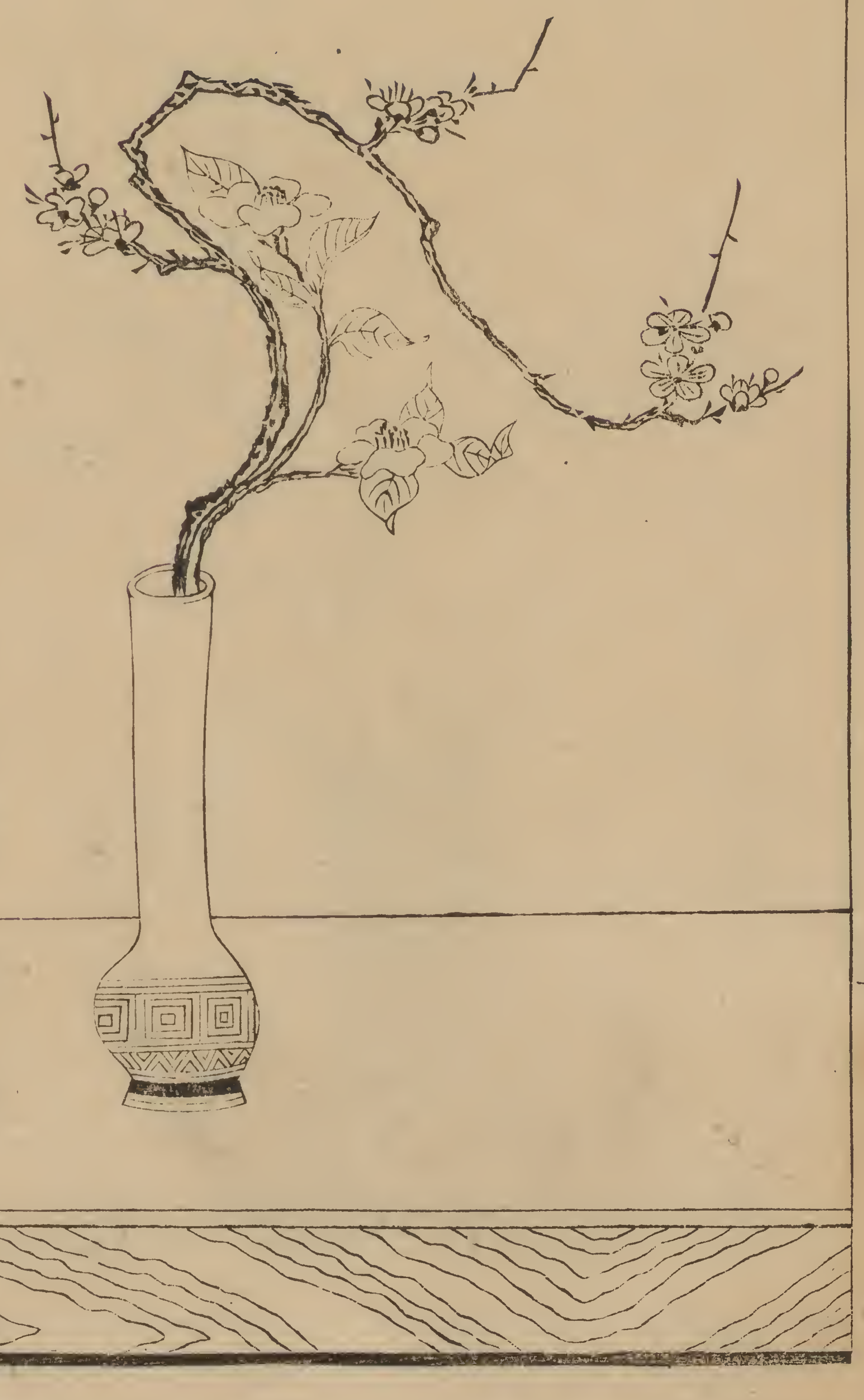
枇杷
はちさ

抱呉園 魚眼

水仙

幽谷齋 蘆川

むめ
はなつはき



一貞菴

柳枝

せうめん
はなつはき

翠華園

聖朝

冬牡丹

金牛園　志乗

梅山茶花

和静堂　呉雪

せん
はないれ

廣陵舍　如泉

はないれ

浴沂亭　雲郎

梅
にきれ

緑樹堂 連山

水仙

石原 泉河

猫柳 [illegible]

三枝麻葛

八て

[illegible]

平井蓬戸

枇杷はなさき

燕山居

川柳

やつで水仙

桂林舎

仲亮

梅柳 [illegible]
水仙
全盛 [illegible]

榎下菴由和

[illegible]

柳車菴
萬舎

寒きく

千里亭
都山

梅につはき

彌生園
非一

石蕗

長谷川氏
少年
五鶴

梅
[illegible]

千尺樓
巴橋

柳 水仙
半峯亭 母必

うめもどき
大梁舎 左朝

是心軒

陽一体之花
余
石信規

陰一体之花

田湘江

五行一体之花

江太路

藍洲江木写

陽の体の花　梅　桜　桃　海棠　八ツ手　陰の体の花　梅が椿　芍薬　江浦草
又その体の花　柳　連翹　黄梅　薇　萩　此如くなれども余ハ推て知べし
およそ草木の如く三体に別ち出生する時ハ他に云ふ主客の二体にて余が家の陰陽二体の花之
各不花令通用すべからと備りたる花形ハ皆其規矩を定て不異なる事ハ枝をとり
先を兼て屈伸表裏して千変万化をなさん之
凡ての花形に後左右の差別なくてハ詳ならざりし事も自ら考測すべし

うつし絵に巧なるハ画工の人ハ一刻に紙に山水
草木を模写しけれど又生花に携る者ハ
其のなまなる瓶のうちに造化の巧を借へて花を写く
はるを知る人かくれハ一家変の業なるハひとつ婦りし
造化のをかしき一つなる生花をかへりみて学ぶ人ハ
先一とつりを心中に移して江戸の画の如く意をこめて

於ゝゑし一葉叟此屋なまゝみのかひ乃國に
甲斐阿りも百瓶の花定めしてよくふさものしるめ
さる紙於はる桜木にちりて恵て常盤かきくさ
於さゝやましこのハたましこめて妻の行末志らぬ人もいゑ
侍ふ有日書る人と佐遊紙けさうる母子なりとのハ
人のしけからく華

手樽庵識

後序

吾國史曰。花時亦以花祭。而甗瓶吊筒之所貯。徃々見於國風。則其自來舊矣。後世獨以香花為浮屠之事者。亦未深考耳。然貯花之道。能知之者鮮矣。故有貴質以不知文者。有貴文以不知質者。豈不可惜哉。是心軒先生嘗西遊京師。

得梅山惠公之舊記因以研究其事繼絶起廢江
漢以濯之秋陽以暴之形模儉々其骨肉皮法無
所不備而後文質彬々如也於是我輩寺本得闡
其幽賞之要古曰後生可畏其斯之謂歟蓋其
為教也托一花於渾沌之初配本支於陰陽両儀
且有稱通用者合畜陰陽妙合之理取諸天浮

橋之象而我本教微旨幾乎其可觀焉古
之以花祭者蓋有以哉余頗好其術而陰陽五
行之理與其無適不存也君子其察諸

安永甲午仲夏　忘川亭関和謹誌

石延藏書

十八

撰者　是心軒一露

島田關和

梓行　山直哉

三枝麻蔦

彫工　江戸日本橋南三丁目　吉田魚川

生花故實集　全部三巻

日本唐天竺共ニ花ヲ翫フ正意ヲ述并儒佛神ヲ以テ花体ノ理義ヲ符合解了スルノ辯

諸國連百瓶圖　全部二巻

花体ハ皮肉骨ノ三体ヲ交ヘ圖ス

草木出生傳　全部二巻

右追テ開板

是心軒著述